

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		公衆衛生看護学概論		2単位／30時間	講義	前期
担当教員		専任教員（臨床経験及び教育経験を踏まえ、公衆衛生看護の概要について教授する）				
授業の目的		公衆衛生および公衆衛生看護活動の歴史及び基盤となる考え方を学び、多様な公衆衛生看護活動について理解する。				
到達目標		1．公衆衛生看護学の基盤となる考え方を習得できる 2．公衆衛生看護の対象と場について説明できる 3．我が国の健康課題を社会的背景と結びつけて地域の健康課題を説明することができる 4．公衆衛生看護活動と法的根拠を結びつけて考えることができる 5．人々の生活や健康と地域との関わりを総合的に理解して保健師活動を説明できる				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		公衆衛生看護の理念・ヘルスプロモーション・プライマリケア		
	2	前期		公衆衛生看護の歴史		
	3	前期		公衆衛生看護の場：保健所・保健センター・産業保健・学校保健		
	4	前期		公衆衛生看護活動の展開方法：家庭訪問・電話相談・来所相談		
	5	前期		公衆衛生看護活動の展開方法：グループ支援・地区組織活動		
	6	前期		保健医療福祉における施策化と事業化		
	7	前期予定		保健師活動の実際（埼玉県内卒業生）＊講師の都合により日程変更有		
	8	前期		実習を通しての保健師像		
	9	後期		1．行政と看護(保健所・市町村実習記録を基に自分自身の看護観をまとめる)		
	10	後期		2．地域と看護(包括・産業・学校実習記録を基に自分自身の看護観をまとめる)		
	11	後期		3．ライフサイクルと看護(母性・学童期・成人・高齢者・の視点で自分自身の看護観をまとめる)		
	12	後期		4．健康危機と看護(精神・難病・災害の視点で自分自身の看護観をまとめる)		
	13	後期		保健師活動の実際：総合		
	14	後期		保健師活動の実際：総合		
15	前期		試験			
教科書		「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」 標 美奈子 著者代表（医学書院） 「国民衛生の動向 2022/2023 Vol.69 No.9」 一般財団法人厚生労働統計協会				
参考文献		「保健師業務要覧 第4版」 日本看護協会監修（日本看護協会出版会） 「別巻ヘルスプロモーション」 市村 久美子 著者代表 （メヂカルフレンド社）				
成績評価方法・基準		試験及び授業への取組状況で評価する。単位認定試験は成績確定後に解答例を掲示する。				
授業外における学習内容		予習：日常的に新聞やニュースを見て情報を収集し、社会の動向をつかんでおくこと。 復習：授業後は内容を教科書で振り返り、理解を深めること。				

学科	授業科目名		単位／時間	開講時期
保健学科	公衆衛生看護展開論		2単位／30時間	前期/後期
担当教員	専任教員及び外部講師（臨床経験及び教育経験を踏まえ、公衆衛生看護活動について教授する）			
授業の目的	公衆衛生看護学各論、演習を通して基本を学んだ後、実際の事例や、臨地に即した考え方を学ぶため、各領域ごとに、理解を深める。			
到達目標	1. 各シラバスに沿った事例展開を実習を通して考えることができる 2. グループワーク、演習を通して、考えることが出来る			
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）	授業内容	主担当者
	1	前期	母子保健の実際と展開	専任教員
	2	前期	母子保健の実際と展開	外部講師
	3	前期	高齢者保健の実際と展開	専任教員
	4	後期	高齢者保健の実際と展開	専任教員
	5	前期	成人保健の実際と展開	専任教員
	6	後期	成人保健の実際と展開	専任教員
	7	前期	精神保健の実際と展開	専任教員
	8	後期	精神保健の実際と展開	専任教員
	9	前期	学校保健の実際と展開	専任教員
	10	後期	学校保健の実際と展開	専任教員
	11	前期	障害者保健の実際と展開	専任教員
	12	後期	障害者保健の実際と展開	専任教員
	13	後期	関係法規の総復習	専任教員
	14	後期	保健医療福祉行政論の総復習	専任教員
	15	後期	保健医療福祉行政論の総復習	専任教員
教科書	「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」 中谷芳美 著者代表（医学書院） その他、適宜配布するプリントを用いる			
参考文献	各担当に準ずる			
成績評価方法・基準	演習、ワークへの取り組み、態度、姿勢。提出物によって評価する。			
授業外における学習内容	これまでの学習及び実習の資料及び教科書を参考にすること			
備考				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		公衆衛生看護技術論		1単位／30時間	講義／演習	前期
担当教員		専任教員及び外部講師（臨床経験及び教育経験を踏まえ、公衆衛生看護技術について教授する）				
授業の目的		保健師活動の特徴である個人支援から集団・地域への支援へと思考を発展させ、対象者への支援を考えることができるような基盤を形成する。そのために市町村勤務の新任期の保健師が経験しやすい事例を用いてグループでディスカッションを重ねることにより、個別支援の中では「権利擁護の視点」を踏まえて支援方法を考えるとともに、「他者と連携・協働しながら」個人から地域全体へつなげる思考過程のイメージを図り、視野の広がりを体験することで理解を深める				
到達目標		1. 公衆衛生、地域保健に関する機能と技術を理解できる 2. 個々人および家族の発達段階や健康課題に応じた支援を考えることができる 3. 予防的視点から将来的なリスクを推測し支援を考える必要性を説明できる 4. 保健指導の法的根拠と基本姿勢が説明できる。 5. 家庭訪問による援助の展開を具体的事例のなかで理解し、個別性を尊重した支援方法を検討することができる。				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		主担当者
	1	前期		公衆衛生看護における機能と技術		専任教員
	2	前期		公衆衛生看護と保健指導 対人支援の基本		専任教員
	3	前期		健康診査 母子		専任教員
	4	前期		健康診査 母子		専任教員
	5	前期		健康診査 母子		専任教員
	6	前期		健康診査 母子		専任教員
	7	前期		健康診査 母子		専任教員
	8	前期		健康診査 母子		専任教員
	9	前期		健康診査 母子		専任教員
	10	前期		家庭訪問 母子		外部講師
	11	前期		家庭訪問・母子		外部講師
	12	前期		健康診査 成人		専任教員
	13	前期		健康診査 成人		専任教員
	14	前期		家庭訪問 高齢者		専任教員
	15	前期		試験		専任教員
教科書		「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」 中村裕美子 編集代表（医学書院）				
参考文献		保健師ジャーナル 編集代表（医学書院）				
成績評価方法・基準		試験、授業への取り組み状況等でもって評価する。試験については成績確定後に解答例を掲示する。				
授業外における学習内容		これまでの学習及び実習の資料及び教科書を参考にすること				
その他		臨床経験・教育経験を踏まえ、観察、技術の実際とアセスメント方法について教授する。				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		健康教育論		1単位／30時間	グループ演習	前期
担当教員		専任教員（臨床経験及び教育経験を踏まえ、健康教育について教授する）				
授業の目的		「対象者の主体性や価値観を尊重して信頼関係を構築し、主体的な行動変容に導く」ことで、地域全体の健康の保持増進ができるよう、地域の健康課題に応じた効果的な健康教育を個人や集団を対象に計画、実施、評価、改善の一連のプロセスが実施できるようになる。				
到達目標		1．公衆衛生看護における健康教育の位置づけとパラダイムの変化が説明できる。 2．健康教育の定義について理解し、ヘルスプロモーションの視点で説明できる。 3．健康教育の目的・目標・対象者および場の選定、教育媒体の選択が適切に実施できる。 4．健康教育の展開過程（企画・準備・実施・評価・事後対応）において基本技術を活用できる 5．健康教育の実践において対象の反応や理解力に応じて柔軟に対応する必要性を説明できる。				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		健康教育概論①（看護現場における教育を振り返って） 健康教育概論②（公衆衛生領域における健康教育）		専任教員
	2	前期		保健行動・行動変容に関する理論 集団への指導（グループワーク、グループダイナミクス）		専任教員
	3	前期		健康教育の実践と評価 健康教育の企画から実施の流れ		専任教員
	4	前期		健康教育の企画：実習地の健康課題に応じた企画（導入）		専任教員
	5	前期		おもしろ健康教育		専任教員
	6	前期		おもしろ健康教育		専任教員
	7	前期		健康教育の企画：実習地の健康課題に応じた企画（グループワーク）		専任教員
	8	前期		健康教育の企画：実習地の健康課題に応じた企画（グループワーク）		専任教員
	9	前期		健康教育の企画：実習地の健康課題に応じた企画（グループワーク）		専任教員
	10	前期		健康教育の実施：作成した企画の修正と実施準備（グループワーク）		専任教員
	11	前期		健康教育の実施：作成した企画の修正と実施準備（グループワーク）		専任教員
	12	前期		健康教育の実施：作成した企画の修正と実施準備（グループワーク）		専任教員
	13	前期		健康教育の実施：作成した企画の実施（発表）		専任教員
	14	前期		健康教育の実施：作成した企画の実施（発表）		専任教員
	15			試験		専任教員
教科書		「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」 中村裕美子 編集代表（医学書院）				
参考文献		「健康教室づくりの極意」 水越真代 他（三恵社）				
成績評価方法・基準		グループワーク発表内容、作成したレポート、試験、その他授業への取組状況でもって評価する。 定期試験は成績確定後に解答例を掲示する。健康教育の実践に当たっては、他グループへの評価が適切に行えているかどうか評価の視点となるため、積極的に意見交換をし、主体的に授業へ参加すること				
授業外における学習内容		予習：対象者の行動変容について、理論等を復習してから授業に臨むこと。 復習：健康教育の指導案や教材づくりについては、グループで検討し指定の期日までに作成する。				
備考		行政保健師の経験を踏まえ、対象のニーズに合わせた指導と健康教育の展開方法を教授する。グループワークをまじえて健康教育の体験を提供する。				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		地域組織活動論		1単位／15時間	講義／演習	前期
担当教員		専任教員（臨床経験及び教育経験を踏まえ、地域組織活動について教授する）				
授業の目的		・保健師活動におけるグループ支援・組織化の意義を理解できる。 ・地域活動、施策への発展に向けた長期的視点を持った支援方法と、保健師の担う役割と具体的活動について理解できる。				
到達目標		1．地域の健康課題への対処に地域組織が果たす役割を説明できる。 2．地域組織の変遷を理解し、社会背景と関連づけて地域組織活動の特徴を説明できる。 3．地域組織活動の基本的な展開を理解し、保健師の役割を説明できる。 4．集団、組織における社会的認知・行動について説明できる。 5．セルフヘルプグループの歴史や実際の活動を理解し、保健師の支援の方法を説明できる。				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		地域組織活動の歴史		専任教員
	2	前期		地域組織活動の種類と発展過程、地域組織活動で活用できる理論		専任教員
	3	前期		地域の特徴、組織活動の実際に触れる		専任教員
	4	前期		地域組織活動の実際（グループワーク）		専任教員
	5	前期		地域組織活動の実際（グループワーク）		専任教員
	6	前期		地域組織活動に参加して得た学びのまとめ（グループワーク・発表）		専任教員
	7	前期		地域組織活動の実際		専任教員
	8	前期		集団・組織における社会的認知・行動		専任教員
教科書		「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術」 中村裕美子 編集代表（医学書院）				
参考文献		授業時に紹介				
成績評価方法・基準		グループワーク、グループ及びクラスへの貢献度をもって評価する。 講義内で小テストを実施。				
授業外における学習内容		地域での人々の生活を具体的にイメージできるように情報を集め、整理しておくこと。 また、地域組織やセルフヘルプグループの種類や成り立ちについても事前学習しておくこと				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		地域ケアシステム論		1単位／15時間	講義/演習	前期
担当教員		専任教員（臨床経験及び教育経験を踏まえ、地域ケアシステムについて教授する）				
授業の目的		公衆衛生看護活動の基本的な展開方法の1つである地域包括ケアシステム。 地域住民や地域の多様な主体が、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指していくために必要な基本的な考え方を学び、実現していくための必要な能力・資源・活動を考える。				
到達目標		1. 地域包括ケアシステムの概念について理解できる。 2. 多様な課題を抱え地域で暮らすあらゆる人々へのサービス提供システムについて理解できる。 3. 地域包括ケアシステム構築のための保健師の役割が理解できる 4. 地域包括ケアにおける多様な専門職および地域の人々との連携協働の意義について学ぶ。				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		地域ケアシステムの概念 ケアシステムとは		専任教員
	2	前期		ケアシステムの構築のプロセス		専任教員
	3	前期		地域ケアシステム構築における公衆衛生看護技術①		専任教員
	4	前期		地域ケアシステム構築における公衆衛生看護技術②		専任教員
	5	前期		ケアシステム構築における地域ケア会議の機能と運営		専任教員
	6	前期		ケアシステムの構築のプロセス評価		専任教員
	7	前期		地域包括ケアの取り組みの実際を知る		専任教員
	8	前期		試験		専任教員
教科書		「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術」 中村裕美子 編集代表（医学書院） 「標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論」 標 美奈子 著者代表（医学書院）				
参考文献		「国民衛生の動向 2022/2023 Vol.69 No9」 一般財団法人厚生労働統計協会 「公衆衛生がみえる 2021-2022」メディックメディア				
成績評価方法・基準		試験及び講義に臨む姿勢でもって総合的に評価する。				
授業外における学習内容		予習：授業には、教科書を読み理解して臨むこと。 復習：授業毎に授業内容を教科書で振り返り、理解を深めること。				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		母子保健方法論		1単位／15時間	講義/演習	前期
担当教員		専任教員及び外部講師（臨床経験及び教育経験を踏まえ、母子保健について教授する）				
授業の目的		近年の母子保健上の健康課題や社会的問題について概観することによって、母子保健の現状と課題を保健、医療、福祉、生活、社会環境等の多方面の視点から分析し、「多様な背景をもつ対象者の主体性や価値観を尊重」しながら、次世代を担う子どもたちの健やかな成長発達を地域全体で支援する方法を習得することができる。				
到達目標		1．地域における母子保健施策と法的根拠が説明できる。 2．母子及び家族の成長発達過程に応じて予防の視点に立った支援方法を考えることができる。 3．地域の実情や健康課題に応じた子育て支援のあり方を考えることができる。 4．社会情勢を踏まえて、家庭や地域における子育て機能の強化や虐待予防の必要性が説明できる。				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		母子保健医療福祉の動向 母子保健（親子保健）の理念、歴史的変遷 母子保健施策と保健師活動、健やか親子21・母子保健計画の実際		専任教員
	2	前期		母子および親子の健康課題と支援 切れ目ない妊産婦・乳幼児への支援の展開、妊娠・出産包括支援事業		専任教員
	3	前期		母子保健におけるメンタルヘルスと支援 マタニティブルー、産後うつ病（エジンバラ）、産褥期の精神疾患、育児不安		外部講師
	4	前期		乳幼児期の成長・発達と健康課題への支援 ① 乳幼児期の健康課題と保健師の支援		専任教員
	5	前期		乳幼児期の成長・発達と健康課題への支援 ② 乳幼児期の健康課題と保健師の支援		専任教員
	6	前期		女性のライフサイクル各期の健康課題と支援 思春期・若年女性 妊娠期/産褥期 育児期 中高年期		専任教員
	7	前期		支援のニーズが高い対象の健康課題と支援 地域のサポートシステム・社会資源		専任教員
	8			試験		専任教員
教科書		「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」 中谷芳美 著者代表（医学書院） その他、適宜配布する資料を用いる				
参考文献		「国民衛生の動向 2023/2024 Vol.70 No.9」 一般財団法人厚生労働統計協会 「公衆衛生がみえる 2024-2025」メディックメディア				
成績評価 方法・基準		試験及び講義に臨む姿勢でもって総合的に評価する。定期試験は成績確定後に解答例を掲示する。				
授業外における学習内容		予習：妊娠の経過及び乳幼児の成長過程について学習しておくこと。 復習：毎講義後、子育て支援施策や母子保健に関する事業と法的根拠をつなげて解釈・説明できるように振り返りを行うこと				
備考						

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		小児保健方法論		1単位／15時間	講義	前期
担当教員		専任教員及び外部講師（臨床経験及び教育経験を踏まえ、小児保健について教授する）				
授業の 目的		子ども家庭庁の発足により、法的根拠の明確化が進んでいる。また、少子化の流れの中、特別な配慮を必要とする子どもの増加は加速している。今後保健師として活動する中で、子ども観、子どもの健康観を養い保健活動を捉える視点を持つ事を目的とする。				
到達目標		1． 地域における小児保健施策と法的根拠が説明できる 2． 小児の成長発達過程に応じて予防の視点に立った支援方法を考えることができる 3． 地域の実情や健康課題に応じた子育て支援のあり方を子どもの視点で考えることができる 4． 児童福祉に基づく保健の捉え方を学ぶ				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		小児保健活動の理念 小児看護とは小児保健とは		外部講師
	2	前期		学童期及び思春期における保健施策		専任教員
	3	前期		子どもの発達と実際（母子保健法に基づく健診を通して）		外部講師
	4	前期		教育相談時の実際を通した特別な配慮を必要とする子どもの理解		外部講師
	5	前期		児童福祉法・児童養護の考え方と実際		専任教員
	6	前期		地域における小児リハビリテーションの実際 1		外部講師
	7	前期		地域における小児リハビリテーションの実際 2		外部講師
	8	前期		小児保健のまとめ		専任教員
教科書		授業の都度、講師が準備する。				
参考文献		授業の都度、提示する。				
成績評価方法・基準		講義に臨む姿勢でもって総合的に評価する。全講義終了後のレポート、出席状況で評価する。				
授業外における学習内容		授業までに小児看護学で学習した小児期の特徴、発達課題について復習しておくこと。教科書で授業内容を振り返っておく。				
その他						

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		成人保健方法論		1単位／15時間	講義／演習	前期
担当教員		専任教員（臨床経験及び教育経験を踏まえ、成人保健について教授する）				
授業の目的		「多様な背景をもつ成人期の対象者の主体性や価値観を尊重し」、成人を対象とした保健活動において保健師に求められる役割を理解し、適切な支援を考えることができる。				
到達目標		1. 成人期の人々の解剖生理学的知識や行動心理学的知識、公衆衛生看護学の知識がもてる。 2. 成人期の人々の健康増進に関する主な法規と、各種保健医療福祉分野の施策、事業の意義と仕組みを説明できる。 3. 成人期にある人の生活の現状と課題を把握できる。 4. 成人期にある人に対する適切な保健指導の展開について、説明することができる。				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		成人保健の概念・目的・成人保健施策・保健活動（健康日本21）		専任教員
	2	前期		成人期の健康課題・保健活動のアプローチ（ハイリスクアプローチ・ポピュレーションアプローチ）		専任教員
	3	前期		生活習慣病と保健指導①		専任教員
	4	前期		生活習慣病と保健指導②		専任教員
	5	前期		特定健康診査・特定保健指導①		専任教員
	6	前期		特定健康診査・特定保健指導②		専任教員
	7	前期		成人期のメンタルヘルス 成人保健の今後の課題		専任教員
	8			試験		専任教員
教科書		「標準保健学講座3 対象別公衆衛生看護活動」中谷芳美 著者代表（医学書院） その他、適宜配布するプリントを用いる				
参考文献		「国民衛生の動向 2022/2023 Vol.69 No9」 一般財団法人厚生労働統計協会 「公衆衛生がみえる 2021-2022」メディックメディア				
成績評価方法・基準		試験及び講義に臨む姿勢でもって総合的に評価する。定期試験は成績確定後に解答例を掲示する。				
授業外における学習内容		「国民衛生の動向」にて、成人保健の動向や施策について学習しておくこと。				
備考		解剖生理学的知識や行動心理学的知識、公衆衛生看護学の知識を踏まえ、成人期の生活と健康課題に対する保健指導の知識と技術の習得を支援する。				

学科	授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科	高齢者保健方法論		1単位／15時間	講義／演習	前期
担当教員	専任教員及び外部講師（臨床経験及び教育経験を踏まえ、高齢者保健について教授する）				
授業の目的	「多様な背景をもつ高齢期の対象者の主体性や価値観を尊重し」、高齢期の人々の健康課題の特性を理解し、健康の維持増進への支援を行う保健師の活動と役割を理解し、適切な支援を考えることができる。				
到達目標	1. 高齢期の人々の解剖生理学的知識や行動心理学的知識、公衆衛生看護学の知識がもてる。 2. 高齢期の人々の健康に関する指標と主な法制度について説明ができる。 3. 高齢者とその家族の地域生活を支える社会資源について理解し、活用方法を考えることができる。 4. 高齢者が希望する地域生活を支援するための社会資源の開発の意義と保健師の役割を説明できる。 5. 地域における高齢者の権利擁護の重要性について説明できる				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容	担当者
	1	前期		高齢者の保険の動向（関連用語の確認①・グループ分け・ループリックの解説）	専任教員
	2	前期		高齢者の福祉と医療	専任教員
	3	前期		フレイルと介護予防、認知症支援対策	専任教員
	4	前期		介護保険制度	専任教員
	5	前期		ココロの健康づくりの実践①高齢者大学～音楽を通しての高齢者との接し方	外部講師
	6	前期		高齢者の権利擁護	専任教員
	7	前期		高齢者の医療福祉・年金制度（関連用語の確認②）	専任教員
	8			試験	専任教員
教科書	標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」中谷芳美 著者代表（医学書院） その他、適宜配布するプリントを用いる				
参考文献	「公衆衛生がみえる 2021-2022」メディックメディア 「国民衛生の動向 2022/2023 Vol.69 No.9」一般財団法人厚生労働統計協会 「国民の福祉と介護の動向 2022/2023 Vol.69 No.10」一般財団法人厚生労働統計協会				
成績評価方法・基準	試験、講義に臨む姿勢でもって総合的に評価する。定期試験は成績確定後に解答例を掲示する。				
授業外における学習内容	授業までに在宅看護学で学習した介護保険制度や老年看護学での高齢期の特徴について復習しておくこと。また、授業後は支援施策と社会情勢、法的根拠を統合して理解できるように教科書で授業内容を振り返って				
備考	行政保健師、在宅看護の経験を踏まえ、高齢者の健康課題に対する地域社会の取り組みや保健師の役割を教授する。				

学科	授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科	精神保健方法論		1単位／15時間	講義／演習	前期
担当教員	専任教員（臨床経験及び教育経験を踏まえ、精神保健について教授する）				
授業の目的	我が国における社会背景をふまえ、「地域における精神的な健康課題」について理解し、その人らしい生活を送ることができるように支援体制を確立する必要性を学び、精神保健（予防）の視点に立った支援方法を考えることができる。また、「地域における倫理的な問題に対して、権利擁護の視点から考えるこ				
到達目標	1. 地域における精神保健活動の動向・制度および保健所・保健センターの役割を説明できる 2. 精神保健分野における施設ケアから地域ケアへの転換について説明できる 3. 精神障害者の地域生活や社会復帰を支える保健師活動を理解し、基本的な支援技術を習得できる 4. 社会病理を背景とする精神的な健康課題への支援方法が習得できる 5. 地域で生活する人々の人権や権利擁護という視点に立って考えることができる。				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容	担当者
	1	前期		精神保健の理念、歴史的変遷、精神保健福祉施策と保健活動	専任教員
	2	前期		精神保健福祉施策 現状と課題	専任教員
	3	前期		精神障害者の生活と支援（１） 精神疾患の危機介入と支援の実際	専任教員
	4	前期		精神障害者の生活と支援（２） 地域において支援が必要な精神疾患のある人への支援の実際	専任教員
	5	前期		社会復帰支援 実践場面から学ぶ統合失調症患者と高齢の親への支援	専任教員
	6	前期		社会病理を背景とするアディクションの理解と保健師の役割	専任教員
	7	前期		まとめ、 最新の精神保健医療福祉の動向と保健師活動	専任教員
	8			試験	専任教員
教科書	「標準保健学講座3 対象別公衆衛生看護活動」（医学書院） その他、適宜配布するプリントを用いる				
参考文献	「公衆衛生がみえる メディックメディア 「国民衛生の動向 2023/2024 一般財団法人厚生労働統計協会				
成績評価方法・基準	試験及びレポートの結果、授業への取組状況でもって到達目標の達成度について評価する。				
授業外における学習内容	予習：精神看護学で学習した精神疾患や精神障害者のおかれてきた歴史について復習して授業に備えること。				
備考	精神疾患の知識に加え、精神科医師、精神保健福祉士、保健師の経験と知識を踏まえ、精神障害者の健康課題の理解と支援のあり方、保健師の役割を教授する。また当事者もしくは家族などのゲストティーチャーを予定している				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		障害者保健方法論		1単位／15時間	講義／演習	前期
担当教員		専任教員及び外部講師（臨床経験及び教育経験を踏まえ、障害者保健について教授する）				
授業の目的		・ 障害者保健に関する法律や支援方法を理解する。 ・ 地域で暮らす障害者（児）の生涯を通じた支援の必要性和保健師の役割と活動方法を理解する。 ・ 地域で暮らす難病患者とその家族を理解し、施策の概要と支援にかかわる保健師の役割と活動方法を理解する。				
到達目標		1. 障害をもつ人々の公衆衛生看護学の知識がもてる 2. 障害者（児）保健の理念・歴史的変遷を理解できる。 3. 障害者（児）保健施策について理解できる。 4. 障害者（児）保健における他職種との連携について、自分の言葉で説明できる。				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		障害者保健福祉施策の動向及び障害者に関する法律		専任教員
	2	前期		障害者（児）に対する行政施策と障害児の福祉		専任教員
	3	前期		障害者（児）を対象とした保健活動と地域で生活する障害者（児）への支援（障害者雇用と支援含む）		専任教員
	4	前期		障害者（児）まとめ		専任教員
	5	前期		視覚障害者の実際と障害スポーツ		外部講師
	6	前期		視覚障害者の実際と障害スポーツ		外部講師
	7	前期		地域における就労支援活動の実際		外部講師
	8	前期		地域における就労支援活動の実際		外部講師
教科書		「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」 中谷芳美 著者代表（医学書院） その他、適宜配布するプリントを用いる				
参考文献		「国民衛生の動向 2022/2023 Vol.69 No9」 一般財団法人厚生労働統計協会 「公衆衛生がみえる 2021～2022」メディックメディア				
成績評価方法・基準		試験、授業への取り組み状況でもって評価を行う。試験については成績確定後に解答例を掲示する。				
授業外における学習内容		予習および復習：教科書を参考に障害者（児）保健の動向や施策について学習を行い、理解を深めること。				
備考		行政保健師の経験を踏まえ、障害者（児）保健・難病保健活動に関する法律や保健施策、地域における支援サポート体制について教授する。				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		難病保健方法論		1単位／15時間	講義／演習	前期
担当教員		外部講師（臨床経験及び教育経験を踏まえ、難病保健について教授する）				
授業の目的		・障害者保健・難病保健活動に関する法律や支援方法を理解する。 ・地域で暮らす難病を持つ方の生涯を通じた支援の必要性和保健師の役割と活動方法を理解する。 ・地域で暮らす難病を持つ方の家族を理解し、施策の概要と支援にかかわる保健師の役割と活動方法を理解する。				
到達目標		1. 難病をもつ人々の公衆衛生看護学の知識がもてる 2. 難病保健活動の理念・歴史的変遷を理解できる。 3. 難病保健施策について理解できる。 4. 難病保健における他職種との連携について、自分の言葉で説明できる。				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		難病の保健施策と動向:難病対策の歴史的変遷		外部講師
	2	前期		難病に係る医療費助成の制度、難病の医療に関する調査・研究		外部講師
	3	前期		難病保健施策と保健師活動		外部講師
	4	前期		難病患者への支援・保健活動：難病患者と家族の特徴（文献考察）		外部講師
	5	前期		難病患者への支援・保健活動：患者と家族への支援（文献考察）		外部講師
	6	前期		地域ケアシステムの構築		外部講師
	7	後期		保健所での難病対策とその実際		外部講師
	8			試験		外部講師
教科書		対象別公衆衛生看護活動、国民衛生の動向2023/2024				
参考文献		難病患者への文献提示（科目責任者が探索）				
成績評価方法・基準		試験100%				
授業外における学習内容		提示された文献を事前に熟読				
備考						

学科	授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科	感染症保健方法論		1単位／15時間	講義／演習	前期
担当教員	外部講師（臨床経験及び教育経験を踏まえ、感染症保健について教授する）				
授業の目的	・感染症の動向、感染症対策を学び、健康危機管理、予防活動のための知識・技術を理解する ・感染症についてのハイリスク集団の行動及び対策について学ぶ				
到達目標	1．感染症対策と保健師活動が理解できる 2．感染症対策の目的や感染症の動向が理解でき、法令に基づく対処行動や、拡大防止への対応が理解できる 3．主要な感染症の動向や対策が理解できる				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容	担当者
	1	前期		感染症の動向、予防の三原則、感染症発生動向調査	外部講師
	2	前期		感染症法、予防接種法、（一類、二類、三類、四類、五類感染症など）及び発生時の危機管理	外部講師
	3	前期		感染症各論（結核・HIV・STD・腸管出血性大腸菌・肝炎）	外部講師
	4	前期		感染症集団発生と感染症調査 定義、調査、集団発生時における保健活動	外部講師
	5	前期		保健所におけるHIV・STD対策及び地域活動（ピアエデュケーション含む）	外部講師
	6	前期		保健所における結核対策	外部講師
	7	前期		感染症保健のまとめ	外部講師
	8			試験	外部講師
教科書	「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」 中谷芳美 著者代表（医学書院） その他、適宜配布するプリントを用いる				
参考文献	「国民衛生の動向 2022/2023 Vol.69 No9」 一般財団法人厚生労働統計協会 「公衆衛生がみえる 2021～2022」 メディックメディア				
成績評価方法・基準	試験、授業への取り組み状況で評価を行う。試験については成績確定後に解答例を掲示する。				
授業外における学習内容	予習：看護学教育で学習した内容を教科書で振り返る 復習：授業毎に教科書で振り返り、理解を深めること				
備考	感染症の動向、感染症対策、健康危機管理、予防活動の知識に加え、保健所と市町村の連携・協働について教授する。				

学科	授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科	産業保健方法論		1単位／15時間	講義／演習	後期
担当教員	外部講師（臨床経験及び教育経験を踏まえ、感染症保健について教授する）				
授業の目的	・保健師として事業者・労働者の双方に対して看護の理念に基づいて組織的に行う、個人・集団・組織への健康支援 活動であることを理解する ・働く人々の「主体性や価値観を尊重」した支援と、「他者と連携・協働しながら組織的に問題を解決する」方策を考えることができる力を身につける。				
到達目標	1. 産業保健活動の目的と産業看護職の役割を説明できる 2. 産業保健の定義について説明できる 3. 労働安全衛生法について理解できる 4. 労働者の安全と健康について考えることができる 5. 産業保健における健康課題について説明することができる 6. 産業保健活動と地域における公衆衛生看護活動との連携の重要性を認識することができる				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容	担当者
	1	前期		産業保健の理念と目的 産業保健・看護の定義と役割	外部講師
	2	前期		産業保健・看護の歴史と現状 ①我が国の産業保健の歴史 ②産業構造と職業構造の変化 ③企業における健康マネジメント	外部講師
	3	前期		産業保健・看護の制度とシステム ①労働安全衛生に関する法体系 ②産業保健組織と人材 ③産業保健・看護と社会資源	外部講師
	4	前期		産業保健における健康課題と対策 ①職業性疾患および作業関連疾患の種類と予防対策 ②女性労働者の支援策	外部講師
	5	前期		産業保健における健康課題と対策 ③過重労働対策 ④職場のメンタルヘルス対策	外部講師
	6	前期		産業保健・看護の展開 ①産業看護職の職務 ②産業保健計画と評価 ③個別的・集団的・組織的展開方法	外部講師
	7	前期		産業保健・看護の展開 ④地域保健との連携 ⑤産業保健活動をすすめる上での困難さ	外部講師
	8	前期		産業保健まとめ	外部講師
教科書	「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」 中谷芳美 著者代表（医学書院） その他、適宜配布するプリントを用いる				
参考文献	「公衆衛生がみえる 2021-2022」メディックメディア 「国民衛生の動向 2022/2023 Vol69 No9」一般財団法人厚生労働統計協会 「産業看護学」 池田智子編著（講談社）				
成績評価方法・基準	試験、授業への取り組み状況等をもって評価する。試験については成績確定後に解答例を掲示する。				
授業外における学習内容	予習：授業には、教科書を読み理解して臨むこと。 復習：授業毎に授業内容を教科書で振り返り、理解を深めること。				
その他	グループワーク等には積極的に参加すること。				

学科	授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科	学校保健方法論		1単位／15時間	講義／演習	後期
担当教員	専任教員及び外部講師（臨床経験及び教育経験を踏まえ、学校保健について教授する）				
授業の目的	・公衆衛生看護の立場から「こどもの主体性や思いを尊重して関係を築き、健康的な生活習慣や生きる力を身につけることができる」ための支援等、学校保健のあり方について考えることができるようになる。 ・学校保健を担う養護教諭の職務を学び、地域保健との関わりを理解する。				
到達目標	1. 学校保健、学校安全、学校給食それぞれの独自の機能を説明できる 2. ヘルスプロモーションの視点から公衆衛生看護における学校保健の役割について説明できる 3. 児童、生徒、職員を取り巻く社会の動向、制度、地域ケアシステムを理解することができる 4. 養護教諭の役割と地域の関係機関との協働について理解し、連携の意義と方法を説明できる				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容	担当者
	1	前期		学校教育及び学校行政、学校組織の仕組みと学校の現状	外部講師
	2	前期		学校保健の定義と歴史学校保健制度とシステム 学校保健安全に関すること、学校保健計画・学校安全計画	外部講師
	3	前期		健康課題をもつ子ども・家族への支援 発達障害、特別支援教育の実際、特別支援教育（学校）と地域との連携	専任教員
	4	前期		学校保健の取り組みと実際	専任教員
	5	前期		学校感染症対策および学校環境衛生 感染症の予防と対策、予防接種、環境衛生検査	専任教員
	6	前期		学校保健における健康課題への対策及び養護教諭の職務	専任教員
	7	前期		学校における保健教育および保健管理の実際 保健指導のねらいと技術、保健指導の特徴。校内健康教育への取り組み	専任教員
	8			試験	専任教員
教科書	「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」 中谷芳美 著者代表（医学書院） 新版「学校保健」チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション （東山書房）				
参考文献	「国民衛生の動向 2022/2023 Vol69 No9」一般財団法人厚生労働統計協会 「新任保健師でもできる！おもしろ健康教育のつくり方」医学書院				
成績評価方法・基準	プレゼンテーション、教材作成、授業への取り組み状況でもって評価する。試験については成績確定後に解答例を掲示する。				
授業外における学習内容	予習：学童期の子どもたちの成長発達や発達障害等の基本的な知識について小児看護学で学んだことを振り返る。 復習：授業内容を教科書や資料で振り返り、理解を深める。				
その他	学習内容の復習をしっかりと取り組むこと				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		公衆衛生看護管理論		1単位／15時間	講義	前期
担当教員		外部講師（臨床経験及び教育経験を踏まえ、公衆衛生看護管理について教授する）				
授業の目的		公衆衛生看護管理の目的・機能を理解し、住民および他機関と協働で住民の健康レベルの向上、地域ケアの質を保証する方法について学ぶ。また、行政組織における情報や組織運営、各種事業および関連予算等、さまざまな公衆衛生看護管理の在り方について学び、「国や地方自治体が掲げる健康施策の理解と将来的な予測に基づいて明らかにした地域の健康課題」に対して活動する、行政に所属する保健師の責任と義務について理解する。				
到達目標		1. 公衆衛生看護管理の目的・機能を理解する 2. 地方公共団体の組織とその運営について学ぶ 3. 住民および他機関との協働や連携の必要性和その方法論を理解する 4. 住民の健康レベルの向上、地域ケアの質を保証するための予算管理や施策化を理解する 5. 住民の権利保障とリスクマネジメント、健康危機管理について学ぶ 6. 情報を扱う保健師の責任と義務について学ぶ				
授業計画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		公衆衛生看護管理とは、公衆衛生看護管理の概念		外部講師
	2	前期		事例管理の実際①		外部講師
	3	前期		事例管理の実際②		外部講師
	4	前期		市町村における予算管理と事業・業務管理の実際		外部講師
	5	前期		市町村における情報管理の実際、地区管理、		外部講師
	6	前期		市町村の公衆衛生看護における人事管理と人材育成		外部講師
	7	前期		組織運営と管理、健康危機管理の実際、災害時における保健師の管理的能力		外部講師
	8	後期		都道府県の公衆衛生看護における人事管理と人材育成および予算管理		外部講師
教科書		「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」 中谷芳美 著者代表（医学書院） 「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」 標 美奈子 著者代表（医学書院）				
参考文献						
成績評価方法・基準		レポート課題80%、授業への取り組み状況20%で評価する。評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回で説明する。				
授業外における学習内容		予習：授業には、公衆衛生看護活動の内容について理解して臨むこと。 復習：授業毎に授業内容を教科書で振り返り、理解を深めること。				
その他		行政保健師の経験・知識を踏まえて、公衆衛生看護活動の管理となる考え方を教授する。				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		健康危機管理論		1単位／15時間	講義／演習	前期
担当教員		専任教員及び外部講師（臨床経験及び教育経験を踏まえ、健康危機管理について教授する）				
授業の目的		人々の生命・健康を守るための健康危機管理の概念、活動体制と保健師の果たす機能・役割を理解する。また、健康危機の事象として、特に災害について、事例でもって保健師の活動を理解する。				
到達目標		1. 健康危機の概念と特性について説明できる。 2. 健康危機管理体制と保健師の機能・役割について説明できる。 3. 災害対策と保健師活動について説明できる。				
授業計画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		健康危機管理対策 ①健康危機管理の定義と要因 ②リスクマネジメント		専任教員
	2	前期		感染症集団発生時の保健活動 ①感染症調査 ②集団発生時の保健活動		専任教員
	3	前期		重大健康危機と保健活動 避難所HUG訓練		専任教員
	4	前期		重大健康危機と保健活動 避難所HUG訓練		専任教員
	5	前期		自然災害と保健活動 ①東日本大震災 福島県保健師の手記紹介 ②各災害サイクルにおける災害対策と保健師活動		専任教員
	6	前期		自然災害と保健活動 ①災害および災害保健活動における基本 ②災害支援の法・制度およびシステム		専任教員
	7	前期		その他の健康危機と保健活動 ①放射線の基本 ②甲状腺との関連		外部講師
	8			試験		専任教員
教科書		「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」 中谷芳美 著者代表（医学書院） その他、適宜配布するプリントを用いる				
参考文献		「公衆衛生がみえる 2021-2022」メディックメディア 「国民衛生の動向 2022/2023 Vol69 No9」一般財団法人厚生労働統計協会 「行政看護学」 金子仁子 編著（講談社）				
成績評価方法・基準		試験、授業への取り組み状況等でもって評価する。試験については成績確定後に解答例を掲示する。				
授業外における学習内容		予習：これまでの看護学教育において学んだ感染症及び災害看護に関する基礎的知識について振り返る 復習：授業毎に教科書で振り返り、理解を深めること				
その他		健康危機の教育経験のある外部講師の協力を得て、保健師の役割について健康支援活動を行うことに資する内容を教授する。				

学科	授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科	地域診断論		2単位／30時間	講義（一部演習）	前期
担当教員	専任教員（臨床経験及び教育経験を踏まえ、地域診断について教授する）				
授業の目的	公衆衛生看護活動を進めるうえに必要な地域の特性、情報収集、地域の課題や強みを把握し解決するための方策を考えることができる。またグループワークを通して「リーダーシップ」のあり方を学び、保健医療福祉分野での看護専門職者の役割を認識することができる。				
到達目標	1. 地域診断の理論と必要性を説明することができる 2. 地域診断を進めるためのプロセスを習得することができる				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容	担当者
	1	前期		地域診断の目的と活用できる理論	専任教員
	2	前期		コミュニティアズパートナーモデルの実際	専任教員
	3	前期		情報収集 アセスメント（1）	専任教員
	4	前期		情報収集 アセスメント（2）	専任教員
	5	前期		情報収集 アセスメント（3）	専任教員
	6	前期		情報収集 アセスメント（4）	専任教員
	7	前期		情報収集 アセスメント（5）	専任教員
	8	前期		情報収集 アセスメント（6）	専任教員
	9	前期		情報収集 アセスメント（7）	専任教員
	10	前期		情報収集 アセスメント（8）	専任教員
	11	前期		情報収集 アセスメント（9）	専任教員
	12	前期		情報収集 アセスメント（10）	専任教員
	13	前期		情報収集 アセスメント（11）	専任教員
	14	前期		総合アセスメント	専任教員
	15	前期		総合アセスメント	専任教員
教科書	「標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論」 藤内修二 著者代表（医学書院）				
	「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド」第2版 佐伯和子編著				
参考文献	「国民衛生の動向 2022/2023 Vol69 No9」 一般財団法人厚生労働統計協会				
成績評価方法・基準	グループへの貢献状況、授業への取り組み状況、課題レポート等で総合に評価する。				
授業外における学習内容	保健医療福祉行政論Ⅰで学習した各種法制度について授業前に予習しておくこと（1時間）。授業毎に配布した資料に目を通し、理解を深めること（1時間）。				
その他	行政保健師の経験・知識を踏まえて、公衆衛生看護活動と行政の中の保健師活動の考え方を教授する。				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		疫学		1単位／30時間	講義	前期
担当教員		外部講師				
授業の目的		保健師として地域の各種疾病予防やその対策を行うには、科学的根拠に基づいた指導や医療行政を行う力が求められている。 疫学は、公衆衛生看護の基盤であり、保健衛生に関わる情報分析の概念と方法および活用について学ぶ。				
到達目標		1. 疫学について歴史と必要性を述べることができる。 2. 疾病頻度の指標（罹患率・累積罹患率など）について説明し、計算することができる。 3. 死亡率の年齢調整について説明し、計算することができる。 4. 疫学調査法の種類と分類について述べるることができる。 5. コホート研究、症例対照研究、介入研究について説明することができる。 6. 暴露効果の指標（寄与危険割合、オッズ比など）について説明し、計算することができる。				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		疫学の概念、疫学の歴史 疫学と保健統計の関連、ジョン・スノウ、高木兼寛、ナイチンゲールについて		外部講師
	2	前期		暴露と疾病発生、割合と比 疾病の定義・暴露・危険因子と基準、比と割合と率		外部講師
	3	前期		疾病頻度の指標 有病率（割合）・期間有病率・累積罹患率		外部講師
	4	前期		人年法 罹患率と人年法		外部講師
	5	前期		指標の相互関係 死亡率・粗死亡率・致命率・相対頻度		外部講師
	6	前期		年齢調整 直接法 死亡率の年齢調整 直接法と計算		外部講師
	7	前期		年齢調整 間接法 死亡率の年齢調整 間接法		外部講師
	8	前期		標準化死亡比（SMR） 標準化死亡比の計算		外部講師
	9	前期		疫学研究の分類 観察疫学と介入疫学、記述疫学研究と分析疫学研究		外部講師
	10	前期		疫学調と暴露の効果① コホート研究と相対危険・寄与危険・寄与危険割合		外部講師
	11	前期		疫学調と暴露の効果② 集団寄与危険、集団寄与危険割合		外部講師
	12	前期		疫学調と暴露の効果③ 相対頻度・暴露割合		外部講師
	13	前期		疫学調と暴露の効果④ 症例対照研究とオッズ比		外部講師
	14	前期		疫学調と暴露の効果⑤ オッズ比の計算		外部講師
	15	前期		試験		外部講師
教科書		「標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学」（医学書院） 「基礎から学ぶ楽しい疫学」第4版 中村好一著（医学書院）				
参考文献						
成績評価方法・基準		筆記試験を70%、授業内課題提出等30%を基本とし、授業への取り組み方・態度などを総合的に評価して60点以上を合格とする。				
授業外における学習内容		当日の講義で学んだ内容を充分復習しておくこと。				
その他		この講義の中では人口静態統計、人口動態統計などの読解は含まれないので、模擬試験や国家試験対策としては「国民衛生の動向」などを参考に近年度の統計データの推移や特徴を理解しておくことが望ましい。				

学科	授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科	保健統計学		1単位／30時間	講義	前期
担当教員	外部講師				
授業の目的	保健師として地域の健康課題に取り組むために、疫学を基本とした各種の統計資料の作成におけるデータの特徴や解析方法および推定・検定法について学習する。				
到達目標	1. 因果関係判定の5因子および必要条件、十分条件について述べることができる。 2. 各種のバイアスとその制御について説明できる。 3. 標本抽出の適切な方法について述べることができる。 4. 偶然誤差と系統誤差および信頼性と妥当性について説明することができる。 5. 感度・特異度および陽性反応的中度について説明し、計算することができる。 6. 正規分布や各種の統計グラフの特徴と活用について説明できる。 7. 各種の検定法の特徴と活用について説明できる。				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容	担当者
	1	前期		因果関係 因果関係判定の5因子、必要条件と十分条件	外部講師
	2	前期		〔誤差〕について 偶然誤差と系統誤差、信頼性と妥当性	外部講師
	3	前期		〔偏り〕と交絡について 情報バイアス・選択バイアスほか	外部講師
	4	前期		交絡の制御 交絡因子とその制御法、層化、マッチング	外部講師
	5	前期		調査集団の選定 母集団と標本集団・標本抽出、無作為抽出	外部講師
	6	前期		スクリーニング 感度と特異度、偽陽性と偽陰性、スクリーニングへの影響	外部講師
	7	前期		スクリーニングレベルの評価 陽性（陰性）反応的中度、カットオフ値、ROC曲線	外部講師
	8	前期		統計グラフ データの種類、各種グラフの特徴、散布図	外部講師
	9	前期		散布度 ヒストグラム、標準偏差・標準誤差・四分位数、代表値ほか	外部講師
	10	後期		正規分布 正規分布の特徴	外部講師
	11	後期		相関と回帰 相関係数・回帰係数	外部講師
	12	後期		仮説と検定 帰無仮説、有意水準、t検定、U検定、X ² 乗検定ほか	外部講師
	13	後期		推定 点推定と区間推定、95%信頼区間	外部講師
	14	後期		食中毒統計・感染症統計 食中毒発生状況とマスターテーブル、性感染症動向調査	外部講師
	15	後期		試験	外部講師
教科書	「標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学」（医学書院） 「基礎から学ぶ楽しい疫学」第4版 中村好一著（医学書院）				
参考文献					
成績評価方法・基準	筆記試験を70%、授業内課題提出等30%を基本とし、授業への取り組み方・態度などを総合的に評価して60点以上を合格とする。				
授業外における学習内容	当日の講義で学んだ内容を充分復習しておくこと。				
その他	この講義の中では人口静態統計、人口動態統計などの読解は含まれないので、模擬試験や国家試験対策としては「国民衛生の動向」などを参考に近年度の統計データの推移や特徴を理解しておくことが望ましい。				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		保健医療福祉行政論Ⅰ		2単位／30時間	講義/演習	前期
担当教員		専任教員（臨床経験及び教育経験を踏まえ、保健医療福祉行政について教授する）				
授業の目的		・保健医療福祉分野の行財政施策の基盤となっている基本的考え方を理解することで、「国や地方自治体が掲げる健康施策」等の個々の行財政施策について概観することができる。 ・行政職としての責任と施策化から、保健師活動につなげて理解する。				
到達目標		1. 保健医療福祉制度のしくみや課題を理解できる。 2. 人間のライフサイクルにあわせて組織されている、保健医療福祉サービスのしくみや課題を理解できる。 3. 国や地方自治体が掲げる健康施策から、健康課題を把握するための視点を習得できる。				
授 業 計 画	回数	月/日(曜日)		授業内容		担当者
	1	前期		保健医療福祉のめざすもの① 保健医療福祉行政の根拠と公衆衛生		専任教員
	2	前期		保健医療福祉のめざすもの② 行政単位、行政制度のしくみについて		専任教員
	3	前期		社会保障制度のしくみと機能① 社会保障制度の理念としくみ 医療制度と政策		専任教員
	4	前期		社会保障制度のしくみと機能②		専任教員
	5	前期		社会保障制度のしくみと機能③		専任教員
	6	前期		社会保障制度のしくみと機能④		専任教員
	7	前期		社会保障制度のしくみと機能⑤		専任教員
	8	前期		社会保障制度のしくみと機能⑥		専任教員
	9	前期		社会保障制度のしくみと機能⑦		専任教員
	10	前期		保健医療福祉分野における制度・政策と動向①		専任教員
	11	前期		保健医療福祉分野における制度・政策と動向②		専任教員
	12	前期		地方公共団体の保健医療福祉計画（埼玉県）		専任教員
	13	前期		埼玉県と実習地保健所管内の現状を把握する①		専任教員
	14	前期		埼玉県と実習地保健所管内の現状を把握する②		専任教員
	15			試験		専任教員
教科書		「標準保健師講座別巻Ⅰ 保健医療福祉行政論」 藤内修二 著者代表（医学書院）				
参考文献		「国民衛生の動向 2024/2025 Vo171 No11」 一般財団法人厚生労働統計協会 実習地：保健所『事業概要』				
成績評価方法 ・基準		試験、授業への取り組み状況等をもって評価する。 試験については成績確定後に解答例を掲示する。				
授業外における 学習内容		毎授業前にはシラバスに沿って法的根拠を予習して臨むこと。また、保健医療福祉行政論Ⅱの講義にむけて、本科目での授業内容を整理しておくこと。				
その他		生活に密着した内容であるため、自分自身や家族の生活と照らし合わせてながら考える。公衆衛生看護学概論や各方法論等他領域の内容と関連し、重なる内容もあるため関連付けて学習しましょう。				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		保健医療福祉行政論Ⅱ		2単位／30時間	講義（一部演習）	前期
担当教員		専任教員（臨床経験及び教育経験を踏まえ、保健医療福祉行政について教授する）				
授業の目的		国や地方自治体が掲げる健康施策の理解と将来予測に基づき、地域の健康課題を明確にし、「課題を解決するための企画力や調整力」を養うとともに、グループワークを通して「リーダーシップ」のあり方を学び、保健医療福祉分野での看護専門職者の役割を認識することができる。				
到達目標		1. 地域保健法と地域自治について説明できる 2. 地域保健福祉計画の計画プロセスから評価まで理解することができる 3. 地域の健康課題と地域保健福祉計画との関連を理解し、保健師が行う事業化施策化の必要性を理解する				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		①地域保健法と地方自治 ②法的な位置づけと基本的役割 ③国・県・区町村		専任教員
	2	前期		保健医療福祉計画と評価（1）：地方公共団体の保健医療福祉計画，計画策定プロセス ③保健計画の推進と評価		専任教員
	3	前期		保健医療福祉計画と評価（2）：地方公共団体の保健医療福祉計画，計画策定プロセス ③保健計画の推進と評価		専任教員
	4	前期		地域診断：総合アセスメント		専任教員
	5	前期		地域診断：事業化に向けて（健康課題の抽出）		専任教員
	6	前期		地域診断：事業化に向けて（健康課題の抽出）		専任教員
	7	前期		地域診断：健康課題の解決策（事業化も含む）		専任教員
	8	前期		地域診断：健康課題の解決策（事業化も含む）		専任教員
	9	前期		地域診断：健康課題の解決策（事業化も含む）		専任教員
	10	前期		地域診断：健康課題の解決策（事業化も含む）		専任教員
	11	前期		報告会準備		専任教員
	12	前期		報告会		専任教員
	13	前期		まとめ 事業化・施策化を考える		専任教員
	14	前期		まとめ		専任教員
	15			試験		専任教員
教科書		「標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論」 藤内修二 著者代表（医学書院）				
参考文献		「国民衛生の動向 2022/2023 Vol69 No9」 一般財団法人厚生労働統計協会				
成績評価方法・基準		試験、グループへの貢献状況、授業への取り組み状況、課題レポート等で総合に評価する。				
授業外における学習内容		保健医療福祉行政論Ⅰで学習した各種法制度について授業前に予習しておくこと（1時間）。授業毎に配布した資料に目を通し、理解を深めること（1時間）。				
その他		行政保健師の経験・知識を踏まえて、公衆衛生看護活動と行政の中の保健師活動の考え方を教授する。				

学科	授業科目名	単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科	個人・家族・集団組織の支援実習	2単位／90時間	臨地実習	後期
担当教員	専任教員（臨床経験及び教育経験を踏まえ、実習指導を行っている）			
授業の目的	個人とその家族、そしてそれを取り巻く「地域全体の健康課題を明らかにする」とともに、地域全体の健康レベルを向上させるための活動を見学や体験を通して総合的に学ぶことで、保健師活動を展開できる力を養う。また、個別事例へのかかわりを通して、ケアチームの実践について学び、「多様な経験をもつ対象者の主体性や価値観を尊重しながら信頼関係」を築く方法や地域住民を含めた地域ケアコーディネーションのあり方と保健師の役割を理解する。			
到達目標	1. 地域の人々の生活と健康、地域特性を多面的・経年的にアセスメントし、地域の顕在的・潜在的な健康課題を見出すことができる 2. 地域の健康課題を分析し、ヘルスプロモーションの視点に立って問題の解決に向けて行われる保健師の活動を説明することができる 3. 個人・家族の健康問題の解決・改善に向けて、家庭訪問の一連の過程を実施し、対象への理解を深めるとともに、継続的な支援を展開することができる 4. 地域で生活する人々の健康の保持増進を支援するために、予防的な立場に立った保健師活動の実践力と応用力を身につけることができる 5. 地域・組織でケアチームを構築する必要性と関係機関との連携方法を説明することができる 6. 地域住民と適切なコミュニケーションを図り、関係を構築することができる 7. カンファレンスを通じて実習目標の達成を目指し、自己洞察を深めることができる			
【市町村実習】 1. 家庭訪問の実際 2. 保健指導の実際 3. 記録からの情報収集		【障がい者施設/就労支援・生活介護事業所実習】 1. リハビリを兼ねる施設での取り組みの実際 2. 施設内での専門職の役割及び生活支援方法 3. 利用者及び家族への関わり 4. 予防の視点に基づく企画・関わりの実際		
【産業保健実習】 1. 健診機関における保健師（看護職）の役割 2. 事業所及びクリニックでの健診後の事後措置の方法と有所見への対応 3. 保健指導受診者の健康問題と健診結果に基づいた保健指導の実際		【精神福祉施設実習】 1. 施設を利用している障害を持つ方の生活支援の実際 2. 施設における専門職の職種、業務、役割 3. 施設を利用している方と医療機関との関わりの実際 4. 家族会、ボランティア等関連機関との関わり		
【母子保健に関わる実習】 児童養護施設等 1. 家族機能が侵害された子どもの健康課題とそのケア 2. 子ども達の心と体の健康づくりを支援する多職種の役割と連携 3. 子どもの社会的擁護の視点と養育者への支援		【社会福祉協議会】 1. 地域の福祉課題、地域福祉活動計画について 2. 社会福祉協議会の概要と組織・活動内容 3. 地域住民の福祉課題を支援する多職種の役割 4. 利用者の対象像と支援の実際		
【校内実習】1. 臨地実習におけるカンファレンス及び実習内容の学びの報告会及びフィードバック				
教科書	実習に関する要項作成、授業で使用した教科書および教材			
参考文献				
成績評価方法・基準	実習目標の到達度について、実習先における態度と学内実習におけるディスカッションの内容など総合的に評価する。			
授業外における学習内容	前期の公衆衛生看護学全般を復習しておくこと。また、日々実習内容とそこから得た学びを記録し、知識と経験を統合すること。			
その他				

学科	授業科目名	単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科	学校保健実習	1単位／45時間 (産業保健と合計)	校内実習	後期
担当教員	専任教員(臨床経験及び教育経験を踏まえ、実習指導を行っている)			
授業の目的	<学校保健> ①学校における保健活動について、養護教諭経験を有する専任教員から活動に関する指導を受けるとともに、学校保健活動を実践することにより理解を深める。 ②(産業保健共通)感染症の一つである結核について、その研究拠点である「結核研究所」を見学することを通じて、集団感染のメカニズムとその予防について理解を深める。			
到達目標	<学校保健> ①学校保健安全法に規定された学校設置者が行わなければならない責務の内容を理解し、そのプロセスについて説明することができる。 ②養護教諭が主体となって行っている学校保健活動の内容を理解し、行わなければならない業務について説明することができる。 <全体> カンファレンスを通じて実習目標の達成を目指し、自己洞察を深めることができる。			
【学校保健実習】 1. 実習校概要 2. 学校保健のしくみ、運営、担当者の役割 3. 保健室経営計画の内容 4. 学校保健安全計画 5. 特別な配慮や対応が求められる児童生徒へのかかわり				
【校内実習】 1. 臨地実習におけるカンファレンス及び実習内容の学びのフィードバック				
教科書	実習要項(本校にて作成)、授業で使用した教科書および教材			
参考文献				
成績評価方法・基準	実習目標の到達度について、実習時における態度と学内実習におけるディスカッションの内容など総合的に評価する。			
授業外における学習内容	前期の公衆衛生看護学全般を復習しておくこと。また、日々実習内容とそこから得た学びを記録し、知識と経験を統合すること。			
その他				

学科	授業科目名	単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科	産業保健実習	1単位／45時間 (産業保健と合計)	臨地実習	後期
担当教員	専任教員(臨床経験及び教育経験を踏まえ、実習指導を行っている)			
授業の目的	<産業保健> ①事業所内の産業保健スタッフの役割と保健師の活動を理解する。 ②(学校保健共通)感染症の一つである結核について、その研究拠点である「結核研究所」を見学することを通じて、集団感染のメカニズムとその予防について理解を深める。			
到達目標	<産業保健> ①事業所における労働衛生対策するために看護専門識者に求められる役割について説明することができる。 ②事業所における産業保健師と行政保健師の役割や活動内容の違いについて説明することができる。 <全体> カンファレンスを通じて実習目標の達成を目指し、自己洞察を深めることができる。			
【産業保健実習】 1. 事業所の主要事業・業務内容 2. 労働者の作業環境と健康課題への対策 3. 事業所における労働衛生管理体制と産業スタッフの役割 4. 職場のメンタルヘルス対策				
【校内実習】 1. 臨地実習におけるカンファレンス及び実習内容の学びのフィードバック				
教科書	実習要項(本校にて作成)、授業で使用した教科書および教材			
参考文献				
成績評価方法・基準	実習目標の到達度について、実習先における態度と学内実習におけるディスカッションの内容など総合的に評価する。			
授業外における学習内容	前期の公衆衛生看護学全般を復習しておくこと。また、日々実習内容とそこから得た学びを記録し、知識と経験を統合すること。			
その他				

学科	授業科目名	単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科	公衆衛生看護展開論実習	2単位／90時間	臨地実習	後期
担当教員	専任教員（臨床経験及び教育経験を踏まえ、実習指導を行っている）			
授業の目的	「国や地方自治体が掲げる健康施策と健康課題の将来的な予測に基づき」、担当地域の地域診断（「健康課題の明確化」）を行い、健康課題の解決に向けて、地域ケアの総合調整機能にかかわる保健師の役割を理解する。さらに地域の健康課題の解決のために必要となる地域ケアシステムの構築や社会資源の開発、住民組織活動への支援、事業化や施策化にかかわる行政保健師の活動を理解する。			
到達目標	①地域住民がその人らしい生活を全うするために、保健医療福祉システムの中で看護専門職者の果たす役割を説明することができる。 ②都道府県保健所と市町村保健センターのそれぞれの機能と保健師活動の意義について説明することができる。 ③市町村で実施されている保健事業について、その事業化の経緯や位置づけを知るとともに、事業の中での保健師の役割を説明することができる。 ④地域診断で明確になった健康課題に対する支援を計画・立案し、評価項目を設定することができる。 ⑤地域で生活する個人・家族・集団の健康課題や地域特性に応じた健康教育を企画立案し、実施、評価までのPDCAサイクルを展開することができる。 ⑥地域で活動する住民組織活動の存在と役割について学び自主活動などへの保健師のかかわりや、地域組織活動と保健師との関係を説明することができる。 ⑦カンファレンスを通じて実習目標の達成を目指し、自己洞察を深めることができる。			
【保健所実習】 1. オリエンテーション 2. 情報収集による地区診断の報告 3. 保健所主催会議への参加 4. プレ審査会・感染症審査会				
【市町村実習】 1. オリエンテーション及び事前情報収集による地区診断の報告 2. 保健センター主催事業又は地域保健事業への参加				
【施設実習】 1. 施設オリエンテーション・施設内保健師の実態を学ぶ。 2. 施設利用者へのヒアリング及び概況調査・データ分析・地区診断による健康課題の抽出 3. 地区診断のまとめと健康課題の明確化、健康教育の企画立案・指導案の作成				
【コミュニティ実習】暮らしの保健室、コミュニティ喫茶等 1. 健康課題を解決し住み慣れた地域で楽しく安心して暮らせる環境づくりのための社会資源 2. 地域住民同士の支えあい 3. 地域ケアコーディネーションのあり方				
【校内実習】 1. 実習先市町村の地区診断に基づいた関連事業の気づき 2. 臨地実習における最終カンファレンス 保健師活動のコアを抽出、学びの報告会及び学びのフィードバック				
教科書	実習要項（本校にて作成）、授業で使用了教科書および教材			
参考文献				
成績評価方法・基準	実習目標の到達度について、実習先の指導者の評価を参考に実習記録及び実践活動、課題及びプレゼン内容、実習態度により総合的に評価する。			
授業外における学習内容	事前の学内実習で掲示された課題を期日までに作成すること。前期の公衆衛生看護学全般を復習しておくこと。日々、実習内容とそこから得た学びを記録し、知識と経験を統合すること。			
その他				

学科	授業科目名	単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科	公衆衛生看護管理論実習	1単位／45時間	臨地実習	後期
担当教員	専任教員（臨床経験及び教育経験を踏まえ、実習指導を行っている）			
授業の目的	「多機関及び地域住民と連携・協働しながら組織的に地域全体の健康レベルの向上や地域ケアの質を保障する方策」を学び、管理的機能の側面から保健師の役割を理解する。また、保健福祉行政の中に位置づけられる看護専門職者である保健師は、地域の実情に応じた事業の「企画」立案や進行管理、予算および情報に関する各種管理能力を養う必要があることを認識する。さらに、人材育成や災害時などの健康危機における保健師の役割や「調整力やリーダーシップ」、「地域の中にある倫理的な問題に向き合い、権利擁護の視点から考え、自身の行動を振り返ることができる」等の、保健師に求められる資質を理解する。			
到達目標	①他機関との協働の必要性と、その方法を地域活動や個別の支援を行う中で理解することができる。 ②事業の予算管理や業務管理などの実際を企画の段階から理解することができる。 ③人材育成の方法や管理的能力の獲得に向けての取り組みについて、実際に現場で行われている内容を理解することができる。 ④健康危機の発生時に求められる保健師の役割について、実習施設の活動マニュアル等を基に理解することができる。 ⑤学生自身の保健師活動に対する洞察を深め、専門職としての意識と責任を持つことができる。 ⑥カンファレンスを通じて実習目標の達成を目指し、自己洞察を深めることができる。			
【保健所実習】 1. 保健所の概要に関すること 2. 保健医療福祉計画に関すること 3. 健康危機管理に関すること 4. 公衆衛生看護管理に関すること 5. 保健情報・家庭訪問・地域活動等からの地区診断について報告・及び反省会				
【市町村実習】 1. 市町村の保健活動の概要に関すること 2. 保健医療福祉計画に関すること 3. 健康危機管理に関すること 4. 公衆衛生看護管理に関すること 5. 保健情報・家庭訪問・地域活動等からの地区診断について報告・及び反省会				
【施設実習】 1. 事業の企画立案と実施・評価のプロセス、予算管理、地域や事例管理の方法を学ぶ 2. 健康相談・家庭訪問等からの地区診断について報告・及び反省会				
【校内実習】 1. 臨地実習における最終カンファレンスを通した学びの報告会及び学びのフィードバック				
教科書	実習要項（本校にて作成）、授業で使用した教科書および教材			
参考文献				
成績評価方法・基準	実習目標の到達度について、実習先の指導者の評価を参考に実習記録及び実践活動、課題及びプレゼン内容、実習態度により総合的に評価する。			
授業外における学習内容	事前の学内実習で掲示された課題を期日までに作成すること。前期の公衆衛生看護学全般を復習しておくこと。日々、実習内容とそこから得た学びを記録し、知識と経験を統合すること。			
その他				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		公衆衛生看護学研究		1単位／30時間	講義／演習	前期・後期
担当教員		外部講師				
授業の目的		公衆衛生看護学研究は、学問領域の発展と公衆衛生看護活動の質の向上、さらに保健師という看護専門識者の人間的成長に貢献するという意義を持つ。このことから研究的視点を持って業務を行うことの必要性を理解し、研究への実践能力を育成することを目指して、公衆衛生看護活動における研究の意義と研究手法の基礎的知識等を学ぶ。また、各自テーマを選び、研究論文と実習をリンクさせ、実践研究の理解を深める。				
到達目標		1. 研究的視点をもって業務を行うことの必要性が理解できる 2. 研究手法の基礎的知識が習得できる 3. 各自テーマを選び、実習とリンクさせながら、実践研究の理解を深めることができる。				
授 業 計 画	回数	月/日（曜日）		授業内容		担当者
	1	前期		公衆衛生看護学研究の意義と目的、研究の過程、研究方法の概説、研究計画書の作成		外部講師
	2	前期		文献検索・文献検討の方法、看護研究における倫理		外部講師
	3	前期		研究方法（質的アプローチ）（量的研究）違い、方法論、妥当性		外部講師
	4	前期		研究論文の批評（リサーチクリティーク）		外部講師
	5	前期		研究の進め方、研究の過程、枠組み設定、方法決定		外部講師
	6	前期		研究テーマの設定、研究計画書の作成の手法		外部講師
	7	後期		研究計画書作成の準備		外部講師
	8	後期		研究計画書作成・テーマの決定		外部講師
	9	後期		計画的 research 実施		外部講師
	10	後期		計画的 research 実施		外部講師
	11	後期		計画的 research 実施		外部講師
	12	後期		抄録作成		外部講師
	13	後期		発表の資料・原稿作成		外部講師
	14	後期		学生主体の研究発表会の実施		外部講師
	15	後期		学生主体の研究発表会の実施		外部講師
教科書		適宜配布するプリントを用いる				
参考文献		標準保健師講座別巻疫学保健統計学、 最新公衆衛生看護学第3版総論、看護研究サポートブック、ナーシンググラフィカ看護研究				
成績評価方法・基準		グループワークでの取り組み貢献度25％、授業への取り組み25％、研究発表50％				
授業外における学習内容		関心のあるテーマの文献検索、講読、整理などの内容の事前・事後課題を出す。進行に合わせた事前・事後学習を行うこと				
その他		公衆衛生看護について洞察し、研究テーマをもって学びを深め学習に活用できることを教授する。				

学科		授業科目名		単位／時間	授業形態	開講時期
保健学科		地域健康づくり論		2単位／30時間	講義／演習	通年
担当教員		外部講師				
授業の目的		地域住民の健康増進のため、心身ともに健康な生活を送りたいと願う人々へのアプローチ方法を実際に地域で活動している方から学び理解することを目的とする。				
到達目標		1. 地域の健康課題への対処に地域組織が果たす役割を説明できる 2. 地域組織の種類や実際の活動を理解し、社会背景と関連づけて活動の特徴を説明できる 3. 集団、組織における社会的認知・行動について説明できる。				
授業計画	回数	月/日（曜日）		授業内容	担当者	
	1	前期		カラダの健康づくりに寄与する地域組織～保健師と健康運動指導士との連携	外部講師	
	2	前期		カラダの健康づくりの実際①健康運動指導士の実技 1（有酸素運動、筋膜リリース、フットケア、ヨガ）	外部講師	
	3	前期		カラダの健康づくりの実際②健康運動療法士の実技 2（ウォーキング）	外部講師	
	4	前期		カラダの健康づくりの実際②健康運動療法士の実技 3（ウォーキング）	外部講師	
	5	前期		カラダの健康づくりの実際②健康運動療法士の実技 4（ウォーキング）	外部講師	
	6	前期		カラダの健康づくりの実際②健康運動療法士の実技 5（ウォーキング）	外部講師	
	7	前期		カラダの健康づくりの実際⑤太極拳	外部講師	
	8	前期		カラダの健康づくりの実際⑤太極拳	外部講師	
	9	前期		カラダの健康づくりの実際食生活支援	外部講師	
	10	前期		カラダの健康づくりの実際食生活支援	外部講師	
	11	前期		カラダの健康づくりの実際食生活支援	外部講師	
	12	前期		心の健康づくり 臨床心理の立場から	外部講師	
	13	前期		心の健康づくり 臨床心理の立場から	外部講師	
	14	後期		心の健康づくり 臨床心理の立場から	外部講師	
15	後期		心の健康づくり 臨床心理の立場から	外部講師		
教科書		講義の都度、講師が準備する				
参考文献		講義の都度、講師が説明する				
成績評価方法・基準		出席状況及び授業への取組状況で評価する。1回の講義毎に6点とするが、太極拳以外の2限続きの講義については、続けて出席した場合において更に1点追加とする。（合計100点）				
授業外における学習内容		地域での人々の生活を具体的にイメージできるように情報を集め、整理しておくこと。 カラダの健康づくりの実際においては、授業中に運動を行うため、運動しやすい服装で出席すること。				
その他		地域での自主グループ作り及び地域で活躍している方々の取り組みを学び、公衆衛生看護学への学習に活用できることを教授する。				